

提灯行列の阿武隈川渡河(1・3日目)

もともと阿武隈川に橋がかかっておらず、お神輿が川を渡っていたのが始まりとされています。川をお神輿が渡るの全国的にも珍しい事です。

提灯行列お囃子(2日目・3日目)

子どもたちによる屋台・山車の引き回し(1~3日目)



総町渡御・町内渡御引(2・3日目)

3夜の提灯行列(1~3日目)▶

先頭の先達から順番に出発し、最後の宮本出発までおよそ2時間を要します。

提灯だけじゃない、
まつりの見どころ



鹿嶋神社からの出発(1日目)

鹿嶋神社への到着・参加全町お手打ち(3日目)

たいこ橋渡り(1・3日目)



9/13 14 15
金 土 日

6年ぶり本格開催！改めてよく知りたい

白河提灯まつり

白河提灯まつりの正式名称は「鹿嶋神社例祭渡御祭」。白河地方の総鎮守 鹿嶋神社の例大祭で約370年にわたり受け継がれている2年に一度のお祭りですが、コロナ禍で休止・縮小を余儀なくされてきました。今年、6年ぶりの本格開催！9月13日(金)・15日(日)の3日間、神輿の町内渡御・提灯行列・屋台・山車の引き回しなどが行われます。

提灯行列ルート

祭典・日程・進行順序お問合せ
鹿嶋神社 TEL.0248-23-3079
白河観光物産協会 TEL.0248-22-1147



御旅所(桜町)
行列の最後は位置する宮本・桜町。宮本は文字通り、神社の在る所を意味します。桜町は神社に一番近いお宮のある町であり、御旅所の所在地です。主体となって全体を取り仕切り、提灯行列の最後尾で神社神輿をお守りする総監督役です。

先達(愛宕町)
行列の先頭を行くのが先達・愛宕町。時の藩主が町割りをした際に、「一番最初にできた町」とのことで先達になったとされています。当日の神社神輿の警護や提灯行列の進行管理を行うなど現場監督役でもあります。

宮本・桜町

神社神輿を担ぐ、横町・田町大町

1・3日目は横町・田町、2日目は大町が神社神輿を担ぎます。これは江戸時代の町割りで田町が街の北の端、西の端が大町であったことから決まったとされています。田町は人が少なかったため、横町と共同で担ぐことになったとされています。神社神輿を担ぐ町の装束には町印以外白で統一されています。お神輿は約700kg。横町・田町の神輿の担ぎ方は、すり足の平担ぎで神輿を揺らしません。掛け声は「わっしよいわっしよい」です。

ルーツは大名行列
武家文化を残す「儀式まつり」

367年前(明暦3年・1657年)白河藩主本多忠義より神社神輿(重要文化財)の寄進がありました。武家文化を庶民に広めるため、一町を大名に模した体系の提灯行列が、旧奥州街道を練り歩くことが始まりとされています。様々な場面でも、武家文化を垣間見るような作法や口上が厳格に守られ、「儀式まつり」とも称されています。



長さなんと約10メートルの先達提灯



元方提灯
先達年頭提灯



町内渡御引継ぎ



朝から晩まで色々な場所で山車やお神輿が出ていて丸3日楽しめます。6年ぶりの「白河提灯まつり」を楽しんでください！



出前講座の様子

子どもたちに白河提灯まつりを
6年ぶり開催の苦勞は「担い手不足」ですね。昔は遠方から仕事を休んでお祭りに来る人もいたのですが、年々そういった人も少なくなっています。
約15年前から小学校で「提灯まつり出前講座」をして、子どもたちに祭りの参加体験をしよう機会を作っています。コロナ禍の際にもお声掛け頂き開催しました。
お囃子・山車は小学生位まで、高張提灯は中学生位まで、お神輿は高校生から住んでいる場所に関係なく祭りに参加できます。お友だちがいると参加しやすいですよ。
7月末ごろから祭りの練習が始まるのですが、私が子どもの頃は、各町内から笛や太鼓の祭囃子が聞こえてくるとワクワクしてました。祭りの時は普段見かけない大人たちがワイワイして楽しんでました。お祭りが終わると寂しくて泣きましたよ(笑)
時代が移り変わり、祭りや町の在り方も変化していますが、小さい頃に体験した祭りの思い出は、色鮮やかに残っています。今の子どもたちもお祭りの経験がそういう思い出になると嬉しく思います。



祭り期間中は様々な儀式が行われます。見どころは2日目、3日目の日中、御旅所からの総町渡御と町内渡御引継ぎです。33箇所の旗場で祝詞をあげ御神楽を奉納しますのでぜひご覧ください。



御旅所 着輿祭



小峰城前で御神楽奉納

神事としての白河提灯まつり
「白河提灯まつり」の期間は、鹿嶋神社では最も重要で盛大なお祭り「例祭」を毎年執り行っています。
祭礼1日目は「神楽」や「浦安の舞」などのお神楽奉納やお神輿に魂を移す「遷座祭」宮本総代にお神輿を渡す「発輿祭」など町内※渡御に出発するための儀式が行われます。
白河地方の総鎮守として、普段はご本殿にお鎮まりになっている神さまが、お神輿にお乗りになり、親しく氏子近くにお渡りになるのが「白河提灯まつり」の町内渡御です。
※渡御：みこしが出かけて行くこと。



浦安の舞